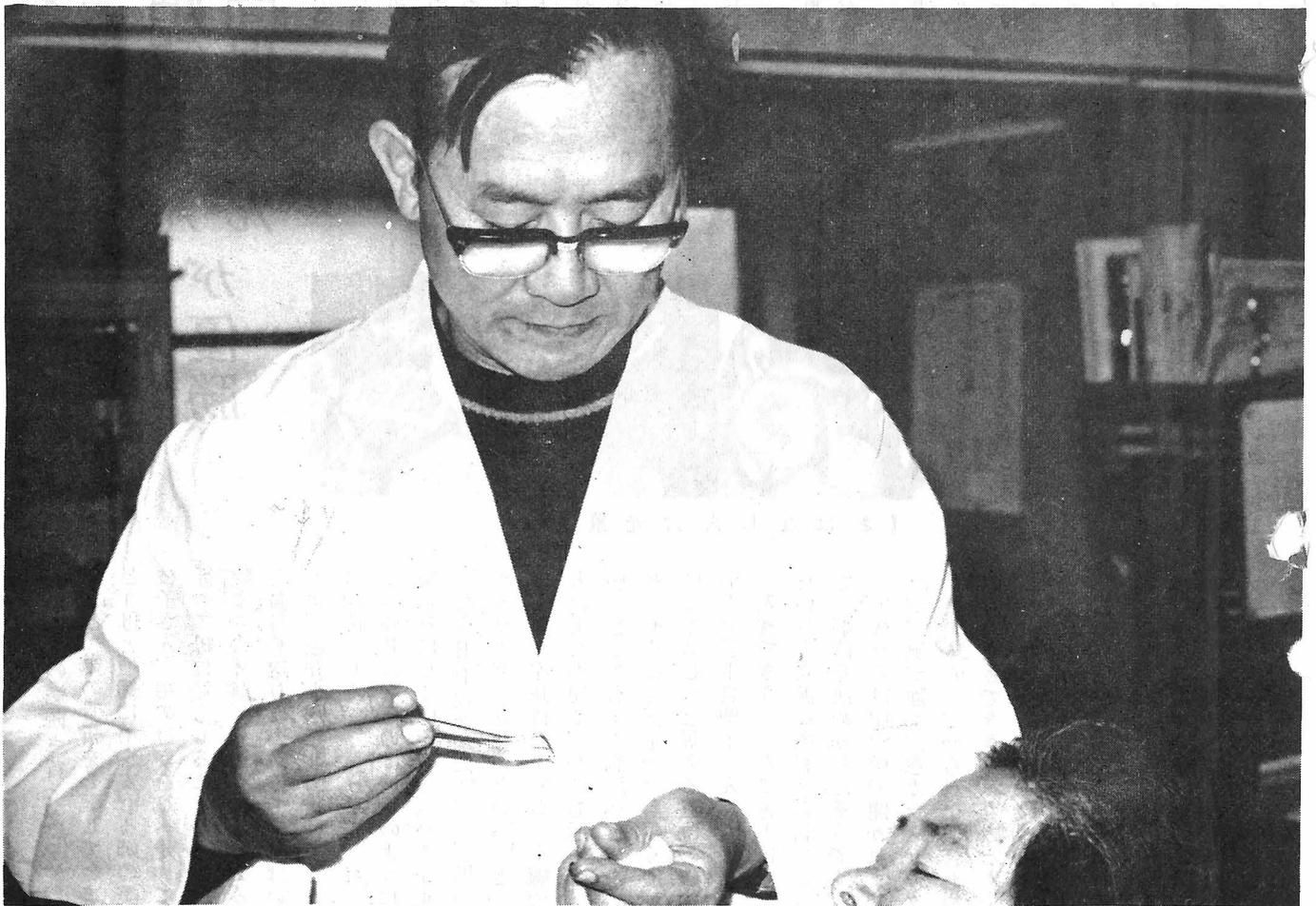


歯医者さんがきました 1日から治療しています



長い間待ちに待った歯医者さんが、この十二月一日から仕事をはじめました。

ことしの四月、前の歯医者さん張先生が退職してから半年以上になりました。この間、青森県国保連合会などにお医者さんをお願いしてきましたが、へんびなわが村には、なかなか来てくれません。そこで、前の張先生と同じように台湾の先生をお願いしていました。が、幸い、この吉永先生が心よく引き受けてくれることになりました。

いま佐井診療所に勤務している馮先生も同じ国の人ですから、話し相手ができてよろこんでいます。十二月二日、さっそく取材に行ったら、患者さんが十人ぐらい待合室にいて、ほっとしました。先生はちやうど抜歯をされていて「痛いですが、痛くないでしょう」と親切に話しながら治療にあたっていました。仕事のあい間をみて、インタビューしてみました。が、「寒さは気にならないが、時間があまって退屈している」と、先生のわが村の第一印象は「へんびな佐井村」ではないかと感じられました。

このへんびな村に来て治療にあたってくださっている先生に対し、心から感謝するとともに、治療についてはよろしくお願ひしたいものです。

小・中学校でおはなし大会

小学校は田畑敏子さんが優勝 中学校は細間保生くんが優勝

去る十一月二十五日、佐井小学校と中学校で、第五回村内小・中学校児童生徒のおはなし大会が開かれました。

この日はあいにくの冬型の天候で、聞くことも話すこともブルブルふるえる有様。

小学校では十五人、中学校では十人の出場者。

午前の部は小学校で、午前九時半開会の予定が、主催者側のミスで、あの寒い中、子ども達を三十分以上も講堂で待たせ、一般の人達や先生方から不満の声も出るほどでした。四十分おくれでようやく開会、六人の審査員の予定が三人しかみえなかった。

加藤伸彦君の基準弁論「てんぐとおひやくしようさん」でこの大会が始まった。学校でのこと、家のできごと、村のこと。童話など数多くあり、弟や妹を愛し、けんかしても兄弟は良い。弟のけがで心配した母と自分の体験、バスも通らないへき地に生活する体験、漁に出て帰らなかった父を心配することなども話して話した。

優勝した四年生の田畑敏子さんは、「私の考える佐井村」と題して、大佐井橋はどうして今まで工事を進めなかったのか。仮橋は危険ですから早くかけてください。町の中がきかないので、川や海にゴミを捨てず回収車に出して町をきれいにしてほしい。など、大人がはずかしいくらい、子どもなりに村を真剣に考えていることがうかがわれました。

二位になった福浦小二年の田中勝江さんは福浦の方言を入れて、「ほかの船が帰ってきたのに、なしていの父ちゃん帰ってこねんだべ。」と漁に出た父が帰ってこないのを、佐井漁協や北海道の漁協へ電話で問い合わせ、父の安否を気づかう子どもの心が表われ、きいていても目頭があつ

くなるほど立派なお話でした。このほかに磯谷小二年の奥島暢宏君は、立派な態度とゼスチャーたっぷりで童話を話してくれて



【おはなし大会光景】

「どこの病院さ行つたらいいべ。」と、弟の骨折を心配してとまどう母と一緒に弟を安じる姉の美枝子さん、弟のけがを畑へ走って行って母に知らせることから、退院までの体験、兄弟愛にほほえみと賛辞を送りたい気持ちでいっぱい。佐井小四年北田美枝子さんは四位でした。

「佐井に来るのは遠足のように楽しみにしている。」「バスが通つたら田中食堂へ行つて、思いっきりオデンを食べたい。」と、へんぴな佐井村の中でも、上磯の方はまだ不便で、バスも通らず、病気をしてもすぐ病院へ行けないと、不慣れた部を一日も早く便利にしてほしいと訴える五位の磯谷小六年三上真理子さん。

入賞できなかったことも達も、たいへん立派な内容とお話しぶり、順位を決めかねたさうです。午後からは中学校で開かれましたが、風が強く、窓ガラスがガタガタするのと、からだに似合わぬ迫力のなきでききとれなかったところも数多くあり、一般の人達や審査員をがっかりさせたほどです。

この弁論で優勝した長後中一年細間保生君の「さびしくなつた村」は、今の佐井村の実情をとらえ、「佐井村に大きな工場があつたら父や兄は出かせぎしなくて済む。」「家の」にぽっかり穴があいたよ

うです。」と、漁業が思わしくないうことや、火事の場合は人手が少なくて心配されるとし、将来は年中出漁できる大型漁船をつくり、立派な漁師になり、地元に残り佐井のために働きたい、と発表してみんなを感動させました。

二位は磯谷中一年の三上玲子さんで、「稚児さんの付人となつてみて。」で、人間の責任感と自己をさびしくみつめる自分の体験、三位は、佐井中二年西谷晴人君の「生徒会のありかたについて」と題し、学校生活を通じ、生徒一人一人が責任を持った行動をすべきと訴えました。

この大会をふりかえつてみると、年を追うごとに発表する内容を深く掘り下げ、自分なりの考えをのべ、問題を提起しており、優秀のつけがたいものばかりでした。これは、児童・生徒に対する先生方の学校教育が充実しているものあらわれと感謝したいものです。

この大会に出場したこともたちは次のとおりでした。

【小学校の部】

- 田畑敏子(佐井四)、田中勝江(福浦二)、奥島暢宏(磯谷二)
- 北田美枝子(佐井四)、三上真理子(磯谷六)、布施静子(佐井五)
- 金沢弘義(原田六)、坂井幸人(牛滝六)、内田仁(長後六)、田中秋子(福浦四)、田中恵志子(失越分二)、加藤秀子(原田五)

大石正仁(長後一)、二宮浩子(牛滝四)、上山由紀子(川目分二)

(中学校の部)

花山俊春(磯谷三)、中西賢吾(牛滝一)、中村春子(佐井一)

田中あつ子(福浦三)、西谷晴人(佐井二)、竹内和香子(牛滝三)

三上玲子(磯谷一)、奥本好子(佐井三)、細間保生(長後一)、内藤静子(福浦一)

さびしくなった村

長後中一年 細間 保生



ぼくたちの村は年々、魚やこんぶの収穫が減つてい一方です。

五・六年前までは、魚もこんぶもたくさんとれて村はにぎやかだった。今年は今までにない不漁で、村は火が消えたようにひっそりしています。

いつたい魚はどこへいつてしまったのだ。それとも魚はいなくなつたのか、海流の関係なんだろうかと、いろいろ考えてみたがどうしようもない。もう長後の沖には魚一匹もいなくなつてしまふのはなからうかと、ぼくは心配になつてきた。

魚がとれないため、ほとんどの家では東京方面へ出かせぎにいかない、生活が出来ない状態です。ぼくの父も、兄も東京方面かせぎにいきました。仕事は、ビニールパイプを作る工場で働いていま

決できないものでしょうか。遠手

漁業になると、船を新造しなければなりません。そうすると、何百万円というお金がかかり、ぼくの家ではとても今のところは出来な

い。

村全体となつて、養殖などをとり入れたらどうだろうか。今すぐは出来ないと思うが、佐井村発展

のために、考えなければならぬと思

います。全国的に佐井村の観光

光仏ヶ浦が有名になり、ずいぶん

とおとずれる観光客も、多くなつ

てきたことはうれしいことですが、

不漁のため、村が年々さびしくな

つていくことは、胸がしめつけら

れる思いです。

出かせぎにいかなくても、安

心して生活が遅れたら、村がど

んなに明るくなるかと思う。そ

んな日はいつくるかわかりませ

ん。もう二度とこないかもしれ

ず。

す。家には母とぼくと弟と妹との

四人で、春に新築した家にひっそ

りと暮しています。

村には男の人達がいないので、

村の行事はほとんど出来ない状態

です。もし、火事でもおきたら、

消火する人手がないので、ぼくた

ち中学生が先頭にたつて、消火し

なければならぬと思います。ま

た、台風の日など、母と三人で家

のみまわりや、船のみまわりなど

をしなければなりません。そんな

時父がいたらどんなに心強いかと

思います。父がいないと、家の中

にぼつかりと穴があいたような気

持です。

稚児さんの付き人になってみて

磯谷中一年 三上 玲子



「玲子、今度人前でどんな態度をとると、父さん許さねど」と父

は厳しい口調で言いました。十三日の朝、私がまだ寝ている

ませ

親子で楽しい生活が出来るのは

少しの期間ですが、来年の春にな

らなければ出来ません。父の帰っ

てくるまで、母を助け、弟や妹の

めんどうをみて、事故のないよう

にがんばりたいと思つています。

また、時々手紙を出し、村の様子

や学校の様子を知らせ、励まして

やりたいと思つています。そして

一日も早く帰つてくることを心か

ら祈つています。

将来、ぼくは、漁師になり、今

までの沖合漁業にたよらず、遠洋

漁業をはじめつもりです。そし

て、一年中を通して魚をとりつづ

けたいと思つています。

ぼくの船が、家族に笑顔で見送

られながら、元氣よく出港できる

ようになることを、一日も早くお

とずれてほしい。ぼくはそれを強

く強く願つています。

付人の仕事はとても不安であつた

し、嫌でした。それで、昨晩は別

の適当な人を見つけてくれるよう

に、母と一緒にお願いしたのです

横浜さんは、父と母に何度も頼

みました。横浜さんの目が少し充

血していました。暇がはれつぼく

て寝不足のようでした。そんな横

浜さんを見て父は、「玲子どうだ

付き人やってみねが。」と声をか

けるのですが、私は黙つていま

た。何回もいわれるので、とうと

う泣き出してしまいました。する

と父が、「あと一時間ばかり時間

かしてくれねべが、子どもとよく

話し合つてみるがら。」と言つて、

横浜さんに帰つてもらいました。

横浜さんが帰つた直後、

「玲子、今度人前でどんな態度と

ると、父さん許さねど。」

というかみなりが落ちたのです。

ふだんは、めつたに私達を叱る

ことがなかつたので、びっくりし

ました。それからみんなで、朝ご

飯を食べました。ご飯中も、ぼろ

ぼろ涙が流れました。

父が、

「人だきや誰でも、自分の好きな

事は喜んでやるし、嫌な事や不利

な事には、背をむけたがるもんだ

だからと言つて、自分の考えだけ

で行動する人間は、最後は他人か

らさらわれ者になるんだ。玲子が

今、断わつたら、玲子は満足だろ

う、でも、せっかく稚児さんに選

ばれて喜んでいる相手の子はどうなるのだ。それ以上に部落の人達の期待を裏切るような結果になる横浜さんの立場はどうなるのだ。そのことをもう一度よく考えて、あとで返事せよ。」

母も、

「中二の人も出るそうだから、がんばってやってみたらいいべき。」と言いました。

その日は、学校へ行っても付き人のことが気になって、満足な勉強ができませんでした。いくら考えても納得がいきません。

ふだんはやさしい父が、どうしてこのように無理な事をやらせようとするのだろうか、と父を恨みました。

横浜さんの話だと、付き人に頼んでいた人が急に出来なくなつたので、その日のうちから中三や中二の女の生徒にお願いに歩いたそうですが、誰も引き受けてくれる人がいかなかったそうですから不思議です。

どうして、中三や中二の人は引き受けてくれなかったのだろう。自分達が拒否すれば、当然下級生の私達に付き人の仕事がまわってくることを考えて断わつたのだろうか。もしそうだとすれば、随分わがままな先輩達だと、物す

ごくいきどおりを感じました。すると、朝、父が話していた事がなんとなく解るような気がして、引き受けることに決めました。

夕ご飯の時

「わ、引き受けるじゃ。」

と言つたら、父も母もほつとした顔をして、にっこり笑いました。

母は、ご飯がすむと、早速横浜さんの家へ報告に行きました。

付き人の仕事は、初めに考えていた程めんどうではありませんでした。ただ、少々疲れたのと腹がすいたことでした。お宮で、きとうする間、座ったきりなので足がしびれて、きとうが終わって立ち上ろうとすると、よろよろつとよろけて

しまいました。

祭が終わつたあとで、父は私に二千円もする大版の写真を記念に買ってくれました。

もし、あの時、どうしてもいやだといって断っていたら、私はきつと後悔したと思います。自分一人の強情が父母を悲しませ、横浜さんの立場を困らせ、お祭りを楽しみに待っている沢山の人達をがっかりさせたと思います。それと同時に、祭りがにぎやかであればある程、その陰には、いろいろな人達が随分苦労しているんだなあとしみじみ感じました。

私は、この貴重な体験を生かして、自分の引つ込み思案な性格をもつともつと積極的にあらためていこうと決心しました。

生徒会のあり方について

佐井中二年 西谷 晴 人



ぼくは生徒会のあり方について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

まず初めに、生徒会の目的について考えてみましょう。生徒会の目的とは、ぼくの考える範囲では、生徒自身の手でい

くするというのが、生徒会の根本の目的ではないでしょうか。

ところで、現在の生徒会の状態はどうでしょうか。ぼくはいま、生徒会に一番必要なものは、生徒会に対する自覚と自主性だと思います。その自覚と自主性が欠けているのではないのでしょうか。

その例として、評議会がそうです。ぼくも、この二年間、評議員をしてきましたが、なかなか発言をしないし、関係ない話しをしたりして、活発に話し合いができません。

それがいいです。それでいて、会費の時間が長くなると、「早く終わろう。」といって、会議がだらけてきます。ぼくもよくそんなことがありがちでした。

これでは、せつかくの学級の代表である評議員が、何のために参加しているかわかりません。もう少し評議員としての自覚と、責任ある積極的な態度が、ぼくにも、それにほかの評議員の人にも必要なのです。

次に、実行委員会ははどうでしょうか。今一番活発なのは、なんと評議会でしょうか。活動をしているといつても、時々見かける程度です。それに、活動しているのは一部の人のみで、活動していない人は決まった人だけが活動して、あとの人は黙っている、ということがあります。

これは生徒会の目的からはずれています。これでは、いくら活動しても実行委員会の本来の活動とは言えないと思います。

以上二つのことを述べてみましたが、ほかにもこういうことはたくさんあると思います。

それでは、生徒会はどうあるべきでしょうか。そのあり方について、ぼくはいま三つのことを述べてみます。

第一番目は、生徒会とは、この佐井中学校の生徒会で動かし、自分もその一員であることを強く自覚することです。皆さんの中には、生徒会とは、生徒会役員が動かしていくもので、「自分はぜんぜん関係ない」と考える人があるかもしれません。「当然それは間違いです」ぼくは、何人かの役員よりも、この二百五十人の生徒全員の力の方が大きいし、大事だと思っています。

ぼくが考えるには、いくら役員だけが頑張っても、皆さんの協力がなければ、この生徒会は動くものではありません。

第二番目は、生徒会に進んで参加するということです。たとえば行事の面から言ってみると、校内記録会にしても、自分から進んで参加し校内の記録に挑戦し、記録を破ろうとする気持。また、球技大会にしても、その時には力いっぱい戦うとか、その行事を先生や

決められた人だけにまかせず、自分から進んで参加する、という気がまえばあれば、この佐井中生徒会は今まで以上に良くなると思います。

最後に、これらの活動について責任を持つということ。いくら積極的に活動しても、それらに責任がなければなんにもならないと思います。だから責任を持つことです。

以上三つのことが、ぼくの考え

人類の進歩と私たちの生活

磯谷中三年 花山俊春



人類は今までの数々のすばらしいことを発見し、そして発明してきました。

これは、人類が他の動物と違って、考える力が発達していたからできたことです。

もし、人類も他の動物と同じように、考える力がなかったなら現在の牛や馬のように、何千年、いや何万年たつても進歩もなく、毎日毎日何を生きがいもなく過ごすだけだったでしょう。

馬は、昔から、人間よりずっと速く走ることができましたが、今

る生徒のあり方ですが、今皆さんはぼくの話が理解できたでしょうか。この三つのことは、今からでも生徒会に取り入れてもらいたいと思うし、生徒みんなが互いに協力しあえば、きっと良い生徒会になると思います。

た宝物であるはず。ランプだつて蒸気機関車だつて発明された当時としては、すばらしい、どぎもをぬくような発明だつたに違いありません。けれども今では、紙は、大工場で大産されるようになり、ふんだんに不自由なく使えるようになったためこれを発明した苦みや、苦勞さえも私たちは忘れるようになりまし

何ということでしょう。なだれや山津波の災害から人間を守り、不幸をなくしようという研究が、甘い予想で実験したために、尊い人命を失うという悲劇となつたのです。

えかけてきたはず。しかし、それでほんとうに私たちの生活が幸福になつたと言えるのでしょうか。世の中が、いくら進歩しても、それを利用する私たちの心に進歩がなければ、幸福になつたとは言えないのではないのでしょうか。

それから、ランプが蛍光灯に変わり、蒸気機関車が電車に変わりました。

それから、九州の水俣市や、田子の浦のヘドロのように、工場の排水による公害で有名になつた所もあります。

私たち人間の心は、数千年前のキリストや釈迦などが、人間の生き方を教えた頃と比べても、ちつとも進歩していかないのではないのでしょうか。

そして人間は、地球だけでは足りずに、月や金星を探検するまでなつたのです。

そしてまた、交通事故は毎日必ずどこかで起こり、一年間に一万四・五千人が死亡し、百万人以上が重いけがで苦しんでいるということです。

下北の国定公園には、レジャーを求めて、全国から観光客が訪れるようになりました。

人間は更に、海洋開発をすすめて、海水から食用の肉を取ったり、石油から食用の肉を作れるようになりまし。そして、海底に大都市が出現するの、そう遠いことではないと言われています。

この人たちは、まちがった人間の考えのために犠牲になつたのではないかと、疑問に感じられてなりません。

私たちが若い人々は、科学にだけ眼をうばわれないうで、人類の眞の発展を深く考える心が必要なのだとつくづく思うのです。

ところで、このようなすばらしい進歩の中にも、バランスを欠いたために、多くの人々を不幸にし、悲劇を生んでいる例もあります。

このような不幸や害を、このままのばなしにしておいてよいものではないか。人間生活をより良くしたい、人間をより幸福にしたいという願いで、研究し、発明したものが、かえって人間を不幸にしているではありませんか。

私たちが、いつも幸福になりたくて願っています。だから、便利な機械や道具などの研究に、命さ

つい先日、川崎市では、けがくずれの実験中に、十五名もの人命を失うという悲しい事故が起きました。この事故は国会で追求されついに平泉科学技術庁長官が大臣をやめさせられたのです。

私たちが、いつも幸福になりたくて願っています。だから、便利な機械や道具などの研究に、命さ

飲酒運転は

やめましょう

交通事故の防止について

福浦中一年 内藤 静子



今までに、おきた事故は何件ぐらいだろうか。時々考えることがあります。でも、それは、とても多くて数えきれないほどだろう。それほど多くおきる交通事故。テレビや新聞などに、よく「交通戦争時代」ということがよくのつています。ほんとうに、そのとおりだと思います。

ニュースを聞くと、「今日、どこで交通事故があった。乗っていた人はみな大けがが……」などとよく聞かれます。聞いた時は驚いた様子ですが、また日がたつと、すぐ忘れてしまう。そうして、毎日毎日同じことが繰り返され、交通事故が今ではあたりまえだと思つている人が少なくはないと思つます。

もし、急に自分の身内の者を事故で失つたら、おろおろして、何もできなくなり、今まで無関心だった交通事故も、人ごとではなくなると思つます。みなさんもこういう経験をしたことはありませんか。

では、何故一瞬のうちに命をう

だからと言つて、みんな気をゆるめてしまうのです。

運転する時は、気をひきしめなおしてからにしてほしいと思つます。でも、一番大切なことは、一人一人気をつけていることです。

また、運転する人ばかりではなく、まわりの人も気をつけてほしいと思つます。

近ごろは、福浦も、休日になると、車で仏ヶ浦に来る観光客がだんだん多くなつてきました。休日でもなくても来る時があります。

福浦では、あまり大きな事故はおきませんが、今は車の交通も便利になり、野平へ行く道や学校の前の道も広くなり、車の行ききもつとよくなるだろうと思つます。車の交通が便利になれば、急病人がでたときなどは、すぐお医者さんを連れてくることはできるし、どこへでも行くことはできるなど、こういったよい面もありますが、事故がおきるといふ悪い面もあります。

こうして、福浦が進歩していくことは良いことだと思つますが、困ることや恐ろしいことがなくて進歩していくことができないものかと思つます。

私は、小学校の頃は、社会のことには無関心でしたが、今はなんだか社会のことに目がむき、交通事故が大変に多くおこつてい

とに気がつきました。そのため、何万人という人達が犠牲になつて死んでいつているのです。ほんとうに恐ろしいことだと思つませんか。

みなさんも、交通事故を早くなくしたいと思つていてのことと思つます。みなさんもこのことについて、真剣に考えてください。そう

きまりをわすれるもの

佐井中三年 奥 本 好子



実行運動の
実施が決ま
た時、わたし
の学級では、
大変な騒ぎで
たつていました。

わたしは、こんな状態だと先が見えるような気がしました。一七〇回という回数で最低学級……。やっぱりわたしの予感はおつていました。

委員長は、決められたとおり生徒朝会でみんなの前で反省しました。その時委員長は、どれほど恥ずかしかつたことでしょうか。委員長としては、注意してもクラスの人は聞いてくれない。だからと言つて、悪くなると、自分の責任になるといふ板ばさみの状態ではなかつたのでしょうか。

それなのに、学級の大部分の人達は、さほど委員長の気持ちをわかつていなかつたのです。そんなことがあつてから数日後学級会が開かれました。議題は例によつて実行運動のことでした。

どうしたら実行運動を守るようになるか、話し合ってみたらいろいろおもしろい意見ができました。A君は、廊下のセンターラインの上にさくを立ててみたらどうかまた、B君は、男子が廊下にたむろするのは、女子と一緒に教室に行きたくないためだから、いつそのこと教室をカーテンドアでしきつたらどうでしょう。

それから、準備時間を短かくすれば、廊下へ出なくなるだろうなどといういろいろでした。その時、「そういうことはほかの人に頼むことであって、もし、それらのことがそのとおりになったら、果たして実行運動の違反者は減るだろうか。」という意見が出た時のみんあの言葉はありませんでした。すなわち、ほかの条件を良くすることの要求だけであって、自分達の責任については気がつかなかったのです。

結局は、一人一人が気をつけるという結果になったのです。この日の学級会は間違っていないながらもみんな意見を出して活発な会でした。その次の日からは、以前みたいに他の学級をひきはなすほどの違反者はなかったのですが、しかし、わたし達の学級はまた最下位だったのです。

その時わたしは思いました。もうどんな手段をとつても、この学級は良くなるまいだろう。こ

の学級は利己主義のかたまりなんだと。

「今日一日、実行運動を一人も違反する者がなかったら、明日の学活はソフトボールをやることにしよう。」と先生が提案したのは。するとどうでしょう。その日はほとんど守られたのです。きつとみんなはソフトボールをしたかったのです。

その時わたしはふとこう思ったのです。ソフトボールをしたいばかりに実行運動を守るなんて、三年生らしくない。三年生失格だ。と、ところが、わたしの気持とは反対に、実行運動の結果が目に見えて良くなっていったのです。どうし



入賞者 (中学校)

左下から、細間保生君、三上玲子さん、内藤静子さん、西谷晴人君、花山俊春君

ここでみんなは可能性を発見しました。つまり、一人一人が注意し合い、気をつけてやろうと思えば、何んでもできるといふことです。このことから、これからの三年B組はもっともっと良くなるだろうとわたしは思います。みなさんから見れば、実行運

動という簡単なことで、これほど苦しんだわたし達をだらしなく思われるでしょう。しかし、苦しんだだけのことはあった、とわたしは思っています。短い期間ながら、わたし達のクラスのすばらしい可能性を見つめることができたこと。それがなにより、この実行運動から学んだこ

たことでしょう。理由は簡単です。クラス全体の人が、今のままではいけないと自覚してきたのです。このことから私は、ほんの一瞬でも友達をあざ笑ったことを深く反省しました。それから、一人一人注意し合ったり、違反しないように気をつけると、実行運動はずつと良くなったのです。そんな時、わたしはうれいしい言葉を耳にしたのです。それは、A君が「実行運動をこれからも毎日守っていくつもりだ。」と、先生に言っていたのです。このように、わたしの学級は短い期間中いろいろと変化したのです。最初は実行運動に無関心、その後簡単なようですが、対策として一人一人が気をつける。しかし、

結局はむだに終わりました。そして今度は実行運動を守つたら学活の時間を利用してソフトをやることにしよう、と先生が言い出したら最初はソフトをしたいために、その日一日は守られませんでした。しかし、みんなが恥ずかしいことを自覚してくれそれからは学級全体が少しずつ明るい方向へ転移していったのです。



入賞者 (小学校)
右下から、田畑敏子さん、田中勝江さん、奥島暢宏君、北田美枝子さん、三上真理子さん

となのです。

一時期には、なげやりにさえなつたわたし達、しかし、一度みんなで力を合わせると、やりとげられることを知ったわたし達。

わたし達は、この秘めている力を、卒業までの残りの中学校生活で、おもいつきり出し合っていて、ことを確認し合い、頑張りたいたいと思います。

牛滝村と人々の生活

牛滝中一年 中西賢 吾



牛滝村は大自然に恵まれ、空気もきれいで住みよい村です。でもぼくは、この牛滝村がもう少し文化が発達していれば、もっと良い村になるのにと、高い山の上から村を見て思ったことがあります。

牛滝村は、わずか五十五軒という家で、人の数も三百六十人ぐらいという小さな村です。そしてこの牛滝村の人々は、全部といていいほど漁師で、魚を採って生活しています。五月の初めから六月の末まで、こうなご漁が始まり、みんな一斉にこうなごを採ります。このこうなごを採ったお金で、この一年間という長い間生活しているかなければなりません。

でも、採らない家は十一月の初めか半ばに、東京の方に出かせぎに行く家が出てきて、このふるさとを去り、一月か二月ごろ帰って

降ると道路に雪がたまって、車が降りき出さなくなってしまう。もしその時、病人が出て病院へ行けないで、ただ死んでしまつてはもはやおそすぎるのです。だから、病人が死なないようにするには、ぼく達みんなが協力して、雪が降つても通れるような道路にしたいとぼくは思っています。

牛滝のおとなの人は、今でも相手の気持ちをすなおに受けとめてくれないのと、ケチな根性を持っていることです。それは、こういうことです。こうなご採りでもして、ほかの家より採らないとすぐ「なに、あたらしい」と言つて、相手を素直に認めてくれないことです。それに、ぼく達も二、

三年前まではこんなこともありましたが、たとえばこういうことです。A君とB君が百メートル競走した時、A君が勝つた、でもB君はA君に「今日調子悪いして負けだんで。」と言って、A君の勝ちを素直に認めてくれな

いことです。

それから第二には、こういうことです。ぼくが海に遊びに行きました。その時D君が魚づりをしている、ぼくはD君につりざおを貸してけるじゃと言うとD君は、「おまえにだけ貸したぐねじや、使いたければ自分の家から持つて来て使ねが。」とこ

とわれてしまったことがあります。

ぼくはこの時、こんな人間もこの牛滝村にいたことを深く悲しんだことがあります。でも、こんなことがだんだん少なくなつてきたので、とてもうれしくてたまりませんでした。

それから、ぼくは、秋の遠足の時、野平の縫道石山に登つて野平部落を見て、こんなことを思いました。それは、この牛滝部落ももう少し野平のように土地があつたら、どんなに村がさかえていくのに、と野平部落の人々を見てしあわせだと何回も思ったことがありました。

それに、ぼくは沖づりに行つて、沖から牛滝の村を見ている

と、へえ、これがおれの住んでいる村な、随分小さい村だなあと思つたことがあります。それに、時々ぼくは、こんな小さな村より、都会に生れていれば良かったと思つたこともありまして。

ところが、この牛滝村は、海がきれいで底のほうまですきとおつて見えるほどきれいでした。だからこの海が、岸壁の工事やら、川の工事のために、底深く見えなくなつてしまいました。でもぼくは、

村が発達していくのなら、少しの間なら良いと思います。でも、公害のないような工事をしてほしいと思います。

それから、こんなきれいな海は世界に一つでもいいから残しておきたいものだ、とテレビのニュースを見て思いました。

それから、ぼくたち中学生、小学生は、おとなになつてから、この村をもつと良くし、あまり苦勞のない世の中をつくりあげたいものです。

夏休み生活を過ごして

印象に残っていること

福浦中三年 田中 あつ子



ことしの夏は、いろいろなことがありました。私には兄がいます。兄は、ことしの春に、こうなご採りが終わつてから、ほや採りの船にのりました。

八月四日、その船が福浦と長後

の間にある長浜のところに來ているので、アイスクリームでも持つて行った方がいい、と母が言ったので、私と弟と、下の弟と小舟で長浜へ行きました。

途中で、仏ヶ浦へ行く船や、仏ヶ浦から戻る船に何度かあつて波が来るので、弟は、横波にならないうちに、船がくるたびに自分の船を動かした。そんなことを何回か繰り返しているうちに、兄の乗っている船のところへ來ました。船は二隻いたので、二隻にアイスクリームをわたしたら、みんなとてもよろこんでくれました。

兄の方の船に乗っていた人が、箱にほやを入れて、私達の船についでくれました。

私達は、まわりで仕事の様子を見てから家に帰ることにしました。兄達の船から大分離れて、私達の

乗っている舟が、こいでもこいでも前へ進まないで、沖の方へ流されていくのに気がつきました。私達は、心配になって、ほや採りの船のずっと近くへもどりました。兄が、私達の困まっているのに気づいたらしく、岩の岸の方へ行けとさけんでいるのが聞こえたので、そのとおりにして行ったら大部調子良く行けたのですが、下の崎のところまで来た時、潮に流されて、またもとにもどってしまいました。

そんな時、こいでいる右側の方のかい折れそうになりました。大きい船はむこうから来るし、自由にこぐこともできないでいるうちに、横波にあつて、もう少し舟から落ちるところでした。弟は時々、「もう終わりだ」とか、「あきらめるよりほかはない」というので、私は、舟の上でまごついてしまいました。下の弟はこわがって泣くし、私はなにをしたらいいかわからないけど、折れそうになつたかいかわりにしようとして、舟についてある板を取ってこいでみたけど、少しの役にも立ちませんでした。

私は、もうこのまま家へ帰れないのだからかと思つたり、また兄のところへもどつて、送つてもらおうと思つたりしたけど、兄は仕事で来ているし、船もよそのものなので、行きませんでした。

そこへ、観光客を乗せたあまり大きな船が通つたので、手をふつたり、よんだりしたけど、聞こえなかつたのか、仏ヶ浦の方へ行つてしまいました。

弟は、はじめからもう一度やつたけどだめでした。この時私は、波のおそろしさをあらためて知らされました。私達は、次の船の来るのを待つことにしました。それから間もなく、長後の方から、船外機のついた船が来ました。

弟は、自分の着ていたランニングシャツだったか、舟につんであつたきれだつたかを、声にあわせて振りましました。私も立つてよんでみました。

船は私達の方に近づいてきました。その時のよろこびは、今でも忘れません。

私達の所に来た船には、四人乗つていました。一人の人が着ていた運動着を見て、私は、長後の船

だとわかりました。その船に引っぱられて、私達は福浦まで来ました。途中で、私達の通ることのできない所を見たら、川の流れよりもいきおいよく流れていました。

家に帰つてから、自分が家にいるのが信じられないくらいでした。私達は夏休みに入る前に、生徒会でいろいろなことを決めました。その中に、舟遊びは、中学生二人以上入つたグループとする、というのもありました。

私は、私と弟と二人で中学生二人以上にあてはまると思つていました。弟は、どうやら、身を動かすことも、海のことも少なくとも私よりは知っています。それに比べて私は、海や舟に関しては、中学生二人以上にあてはまらない、ということがよくわかりました。

私は、思いつくと考えないですぐやる方ですから、これからはその点に気をつけ、何事もよく考えたと上で行動したいと思つています。

なやんできた日々

牛滝中三年 竹内 和香子



三年生に進級して、間もなくのことでした。学活の時間を利用し

つなためらいが、ひととき私の心におつかつてはくだけおちるので。今日は私にまでこないようにと自分で祈りながら、自然に自分の顔が手でふさがれてしまうのです。

ああー、どうしよう。先生になんて言つていいかわからない。私の番までこなければいいのになあ。とただそれだけ。先生と対面している人の声だけがしきりにきこえる……。

まわりは静まりかえつて、春の日ざしがさし込んで、さわやかな風がこの教室のまわりをつつんでいた。

その時、私の心は、一面まっくらに思えた。どうしてこれからの人生を過ごしたら良いのだろうか。夢も希望もない……。いつそのこと、私という一人のちっぽけな人間が生まれてこなければ良かったのに……。

「次ノ」と先生は言った。また私に一步近づいたのです。先生は、「どうするぞ。」ほんの一瞬の無言。相手は答えた。「高校へ進学したい。」と。しきりに討議されています。

終わりのベルが鳴った。私はほつとした。でも安心はできなかつた。また来週この時間にこの話しがまちかまえているのでした。そんなことを考えると不

安でたまりませんでした。その日、家へ帰つても遊ぶこともできず、テレビさえ見る気もありませんでした。勉強に手がつかないのも当然でした。そうしていく日かたつたある日のこと。また勉強に手がつかなくなつたのです。

みんなが一生懸命勉強しているのにもかかわらず、私はその中に入つていくことができなかったのです。みんなは、自分の心配ごとをかくしてまで仲良くやつているのに、私には、それをかくすことさえできなかったのです。自分の悩みを、友達にもうちあけられなかつた私が、とてもみじめに思えてたまりません。

そうして数日後、また、学活の時間がやつてきました。先生はMさんと一生懸命話していました。

「次わいだ、どうすべ」と何人もの人が、まわりをざわめくように、私の心もざわめきはじめていたのです。数十分後、ついに私の番がやつてきたのです。先生が「どうする。」と聞いた。一瞬赤らめた顔も普通の姿にもどりきつて「就職したい。」と私はいう。そうしたら、「そうか。」と先生。でも私は、よりよく生きていくために、自分に一番あつていた進路だと思つていました。でも、親・兄弟にも相談してみなければ、なんとも言えません。

やつと先生との話しが終わつて

ほつとした。二年生のあたりから自分の意志がはっきりしていたら、そうこまることもなかったのに。

職業安定所の人から、私の希望所は、「今ではやはり高卒でなければ」と言われた。そう考えてみると、今の世の中は、教育なしでは生活ができないということが、すみのすみからじよじよにわかってきたような気がします。

わたしたちの実行運動

佐井中一年 中村 春子



わたしたちの学校では、生徒会が中心となつて、校内生活で悪い

ところを改善するために、目標をかがげ、実行運動を進めています。ことしの実行運動としては、二つの項目を上げ、それを、実行させるために、週番が中心となつて一生懸命努力しています。

その一つは、「正しいあいさつ」です。朝と帰りのあいさつを、正しくかわすことです。この運動は日があつたつてよく守られて来たので、最近では、週番の方でも、評議会の方でも、それほど問題にはなっていないので、大変よいこ

無人島で暮らせるものなら、教育はいらない。でも、この私にはできないのです。これから社会人として出ていく私にとって、先生方、そして、兄弟などの生活体験を参考にしながら、この短期間に自分が求めようとした、たくさんの中から、大事だと思ふことを最初にぬき出し、こつこつと生活していくことが、第一の条件ではないでしょうか。

とだと思ひます。

その二の項目は、「正しい歩行」です。内容としては、「廊下の歩き方」と「教室移動」が上げられています。これが、問題なのです。この実行運動が、なかなか守られないので、週番、評議会ではいく度となく話し合いを、進めてきました。その中でも、週番委員は、大変です。準備時間や昼休みも遊ばないで、仕事を進めてきました。その結果は、どうだったでしょうか、走る人が、だんだん減つていきました。

しかし、週番がいる時は、それでいいのですが、まだまだ正しい歩行が守られたとは、とてもいえない。週番のほうでは、まえに

こんなことがありました。廊下を走ったり、右側通行をしなかった人など、いくら注意してもきかなかつた場合は「ぶつてもいいんじゃないか」と言われたこともありました。実行運動を守らせるために、こんなことまで、話しに出した、週番の気持ちも考えてほしいのです。

また、このようにまで一生懸命になつてゐるのに、なかなかおられない、守らない人が、わたしたちの学校の中にあるのです。そのため更にその解決方法を話し合い実行運動を守らせるために、十六回以上違反した学級を、反省学級として、一週間昼休みに、遊ばれなくしたのでした。そのほかに、反省学級の学級委員長には、生徒朝会の時、学級の話し合いのまとめを反省してもらうことにしています。その結果、昼休みに遊ぼうとしてこの項目を守るようになってきました。

八学級の中では、遊んでいる学級もあれば、遊べない学級も出て来ていますが、はじめにくらべて最近では、走る人がものすごく少なくなつてきています。でも、わたしたちは、このことを良くなつたと喜んでよいのでしょうか。なにかすつきりしないものがあります。この実行運動の解決方法から、また、別な問題が起つてきたのです。それは、昼休みに、体操場で遊ばれなくなつたので、教室に不用物をもつてきて遊ぶ人がふえて

きたのです。ちよつとのもので、大事になりかねない、マッチをもつてきて遊んだり、準備時間遊んでは、いけないのに、パッチ遊びをしたり、飛行機遊びをする人が本当に多くなりました。飛行機を作るために、自分のノートをやぶいたり、ほかの人のノートをだまつて持ち出したりしているのです。きまりも守れないでいて、こんなことをして、何がよいのでしょうか、何がおもしろいのでしょうか先生に何度となく注意されてだんだんなくなつては来ましたが、今では、準備時間や、昼休みに教室の前や後ろで、プロレスのまねをしたり、教室の中を走りまわつたりするのです。一生懸命学習しようとしてゐる人には、本当にえらいめいわくをしてゐるのです。

せつかく実行運動が、守られるようになったけれど、そのために別な問題が出てきたというところは、実行運動の解決方法の考え方が余り深いものではなかつたのではないのでしょうか。もう一度実行運動が、守られない理由を考えなおして

サラリーマンの年末調整

サラリーマンの所得税は、給与の支払者が給与を支払う際に、その給与に応じた所得税を差し引いて納める源泉徴収制度になつています。そして十二月には、ことし一年間の所得税を精算するために

てみたらと思ひます。

まず一つには、「週番が見ていなかったから走つた」とか、「遊びに夢中になつて走つた」とかという理由がならべられるとすれば週番がいなければ、当然守ることができないことになりまふ。週番だけが、一生懸命になつてもしかたがないのです。注意されるから走られないではなくて、走ることにいけないんだという気持ちで、一人一人が、守ろうという気持ちを強くもたなければなりません。わたしは、実行運動について、つぎのような、希望をもつていまふ。

それは、実行運動の中心が、週番から守る生徒のみならず、一人一人のものになつていかなければならないということです。そのためには、学級でも、なぜ守らなければいけないのか、なぜ必要なのか、もつと深く話し合いをし、また、生徒一人一人が、よく反省し、生活してほしいのです。そして、今以上の解決方法が、出てくることを願つています。

年末調整が行なわれます。そのため、扶養控除申告書や生命保険料等控除申告書を正しく提出していただくなければなりません。また、災害や盗難にあつて雑損控除を受けられる人や、多額の医療費を支払つて医療費控除が受けられる人は、確定申告をして納めた税金の還付が受けられます。

失業保険認定について

出かせぎ者の皆さん、長い間の出かせぎご苦労様でした。ことしもまた失業保険認定の時期が来ました。認定を受けるには例年のとおり事前に役場で手続きをしなければなりませんから、次の書類等を持参してください。

- 1、離職票
- 2、出かせぎ労働者手帳
- 3、印鑑

失業保険金は口座振込になっていますから、金融機関へ委任状を提出しなければなりません。したがって、下北信用金庫佐井支店か佐井村農業協同組合かのおいずれにするか決めたくておいてください。

なお、年末年始の認定事務は、十二月二十七日(月)でしめきり明年は、一月五日(水)から受付します。

回	認定月日	曜日	支払月日	曜日
1	一月六日	木	一月十七日	月
2	二月三日	木	二月十四日	月
3	三月二日	木	三月十一日	土
4	三月三十日	木	四月八日	土
5	四月二十七日	木	五月十日	水

村長の取次ぎによる失業の認定(相談)日と認定時間および失業保険金の支払日は次表のとおりです。認定日には自分の時と窓口を間違わないようにしてください。

失業保険認定日時及び支払日

窓口No	1	2	3	4	5
9,00	150,064 150,160	271~ 300	421~ 450	571~ 600	721以降 降情処理 政府関係
9,30	161~ 190	301~ 330	451~ 480	601~ 630	
10,00	191~ 210	331~ 360	481~ 510	631~ 660	
10,30	211~ 240	361~ 390	511~ 540	661~ 690	
11,00	241~ 270	391~ 420	541~ 570	691~ 720	

祝祭日の国旗掲揚について

老人クラブ寿会 石沢みき

本格的な冬の訪れに、ゴウゴウと唸りをたてて吹きまくる寒風に路上も凍りつき、老人には歩行にひと苦労の季節となりました。

長い間の村のとしよりの念願の老人クラブの集會も、今年は漸く順調なすべり出しにより、久しく

會員が望んでいた温泉旅行も実施され、ほんとうに嬉しく、村当局はじめ、種々お世話くださいました皆様に、心からお礼申し上げます。

十一月二十三日は映画とお話し合いの集會でしたが、折悪しく、風雨のため大佐井の方々は大変だったと思います。会長さんのお世話で、役場の車を利用してもら

う予定でしたが、いろいろな事情でお借りすることができなかったとの事でした。その悪天候にもかかわらず、四十三人も集まり、久しぶりで見る映画に皆大喜びでした。

「ある老人の一生」は、ほんとうに私達にとっても参考になりました。半農半漁の村に、孫の守りを見ながら、早朝から日暮れまでの暇なく働く喜びに生きる老母の姿、亡夫の形見の牛が売られていく時の、牛との悲しい別れの場面は、しみみりさせられました。

最後の場面は亡夫の法事に、旅に出ている息子が、娘孫達家族一同が郷里に帰り、老母を中心に、村

の人達の老婆に対する温い思いや。どこの田舎でも見られる祖先の靈前に、亡夫の法事のため心をくたく老母の心境は、同じ年代の私には、深い感動を覚えました。カラーの下北観光は、同じ下北に住みながら、全々見たこともない各地のすばらしい景観は、びっくりしながら見ました。地元の人々が写ると、誰か知っている人が見えないか大騒ぎでした。ご多忙な中を私共のため、時間をさいて映画くださいました教育委員会の職員に、心からお礼申しあげます。

お話し合いの時間では、副会長の川村さんが、神仏を敬い良きじいさんとなり、良きばあさんになるようつとめましょう、と一言會員にお話しになり、新春の懇親會は一月二十日頃やる予定とのことでした。踊りなんかもあるそうですから、會員一同揃ってご出席ください。

次に、私は二つのことを提案しました。祝祭日の国旗掲揚とぞうきんを作り、学校や保育所へ寄贈することです。私はいつも、祝祭日に国旗を立てている家があり少ないのをとても淋しい気持ちで眺めています。

今は、昔と異り、時代の相違もあり、国家に対し、国旗・国歌に對してもそれぞれ意見も異なり、政党でも、保守あり革新あり、各

人の考えもまちまちと思えますが国旗・国歌に對しては、もともと誇りと愛着を持つべきではないでしょうか。これも、明治生まれの私の思想の古さ故か偏見でしょうか。私は、赤十字社の百年祭が、青森市の体育館で開催された時出席しました。

青森市の中学生の手によって、世界各国の国旗の入場が行なわれ盛んな拍手で迎えられました。その時私は、国の東西を問わず、自国の国旗に對し尊敬と愛着を感じるのは当然と思えました。

スポーツの国際競技で、日本の選手が優勝し、君ヶ代の歌が流れ日の丸の旗がスルスルと揚げられますと、檀上の選手が目頭をおさえているのをテレビで見ることがあります。祖国の榮譽を自分の手で勝ち取った喜びと感動で、思わず涙の目で日の丸を見あげている事と思えます。

白地に赤く、日の丸染めて ああ美しや日本の旗はと歌われ戸毎に立てられた国旗も、時代の流れに次第に姿を消していく。これで良いものでしょうか。私はそう思いません。これも老人の感傷と言われるかも知れませんが、それで二十三日の集會で、寿会の會員だけでも立てたらと提案しました。

各自それぞれ考えで行なう事を、会の名のもとに皆さんにお願いするのは違法でないかと反省し

ました。それで、村の識者教育委員等のご意見を伺いたく書きました。忌憚のないご意見を伺えれば幸甚と存じます。

私は、せめて元旦だけでも国旗を立て、来るべき年を祝福し、国の平和と私共の住む佐井村の振興

を立、来るべき年を祝福し、国の平和と私共の住む佐井村の振興

年末の火災予防

火の元には十分注意を

年末をひかえ、お互いに気ぜわしい多忙な月です。また、気象的にも空気の乾燥、強風とあいまって、ひとたび火災が発生するとこの悪条件が重なるため、大火災になることが非常に多くなっています。

火災は、ちょっとした不注意によって起るものですから、火気の取扱いには細心の注意が必要で、次の点に十分注意してください。一、ストーブの清掃は日を定めて実施する。

と村民の福祉のための明るい村政に期待をかけたたいと存じます。来年も何かと老人クラブの事でお世話になる事と存じます。何とぞよろしくおねがい申し上げます

二、取灰の跡始末は確実に処理すること。

三、電気器具等の取扱いは説明書をよく読んでから使用すること

四、たばこの吸いながら、寝たばこに注意すること。

五、老人や子ども、病人は避難しやすい所にねかすこと。

民生委員が改選されました

十二月一日付で、次の人たちが委員に任命されました。民生委員は、みなさんの福祉のための相談員ですから、遠慮なく相談してください。

田名部武勇(大瀬戸、川原町、浄土寺町)、石沢みさ(緑町、新町、大町の一部)、樋口よい(大町の一部、谷地町)、渡辺みな(浜町

黒岩、中道)、金沢み祢(浜町、仲町)、和田喜一(台場町、川向町)、西谷豊彦(浦町)、島野利勝(新町)、加藤正吉(原田)、高くろよ(川目)、館脇敏雄(矢越)、田中武雄(磯谷)、大坂浅次郎(長後)、越繕きみ(福浦) 坂井文雄(牛滝)、佐藤忠夫(野平)

電話の加入申し込みについて

むつ電報電話局

電話を申しこんでも、なかなかつかないという苦情があります。佐井村の場合ですと、昭和四十四年十一月までに申し込みされたかは、一部工地上支障があるために延期になる分を除いて十二月に架設しています。それでもまだおつけない分は、本村が六十、各部落が五十五となっています。

電話を申しこんでも、なかなかつかないという苦情があります。に電話番号がついてどこでも話しができますが、一人が話しをしての間は、同じ回線の他の加入者は話しができない仕組みになっています。そういう訳で、集団電話は、利用度の高い方々にはおすすめでできない制度です。これを本村にもという意見のかたもありますが、以上のような特殊な電話です。

電々公社では、こうしたお申し込みに対して、「申し込んだらすぐつく電話」を目標に、努力をかさねていますが、なにぶん、一つの電話の架設に三十数万円の予算を要しますので、これらを一挙に解決することは困難なため、計画をたて順次架設しているのが現状です。

十月から工事を進めていた磯谷小学校校舎が、十二月三日完成しました。この校舎は、今まで教室がせまくて、子ども達の授業が思うようにできないことから、ことし建築したものです。

磯谷小学校校舎完成

この校舎の完成で、今まで窮屈に勉強していた子どもたちは、これから新しい教室でのびと勉強できるとあって大よるこびです。校舎の面積は三百八十八平方メートルで、工事は坪谷正隆さんが九百四十四万五千円で請負したものです。普



すから、局としては、一般電話をおすすめしたい考えです。一般電話も、前記のような事情ですが、順次全国がダイヤル式になります。そこで、どうせいつくかわからないといって、加入申し込みをしない方も随分あるようですが、申し込みがなければ、どこにどれだけの需要があるのか判らないので計画がたえず、そのため架設がおくれる場合もありますから、加入申し込みは早めにおだしになるようご案内申し上げます。

通教室二、理科室一、職員室一、このほか教具室、放送室などで、特別教室の理科室を設けたのは佐井中、佐井小につき、管内では三番目の学校になりました

.....

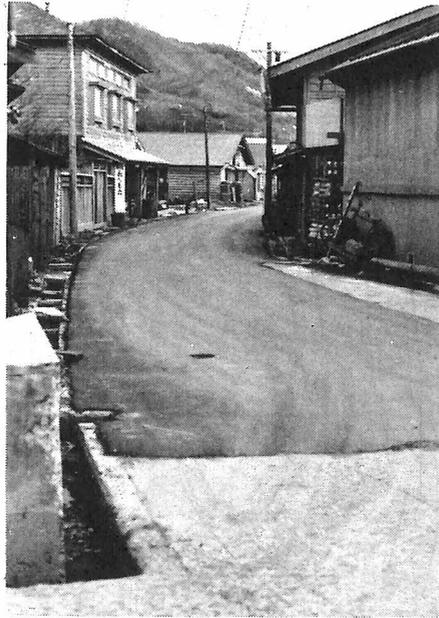
建物の財源内訳は、国の補助金が二百九十四万二千円、地方債四百四十万円、一般財源二百一十三万三千円の見込みです。

舗装道路ができました

古佐井大町が村道ではじめて舗装されました。この大町は、ダンプカーなど大型車がしょっちゅう往来し、こどもたちの交通事故の心配と、ほこりで窓も開けていられないなど附近の人達から苦情が出ていたものです。

舗装されたのは百八メートルで

工事は野村組が二百十六万円で請負したものです。この舗装工事は起債が百六十万円、一般財源五十六万円で



「飲んだらゐるな飲ませるな」

道路交通法が一部改正

十二月一日から、道路交通法の一部が改正になりました。この改正法は、交通ルールに関する規定を全国的に整備するほか、歩行者の安全確保のための規定を設けるなど、規定の整備が行なわれましたが、その内容は大きく分けて、交通管理のための規定の整備と運転管理者の規定の整備とに分かれています。そのおもな内容を説明いたします。

一、歩行者の通行の安全の確保

1、歩行者用道路

◆ 歩行者用道路（車両の通行が禁止されている道路）では、歩行者は道路の中央や車道を自由に通行することができます。

イ、警察署長の許可を受け、またはあらかじめ禁止の対象から除外されていること

により通行する車両は、特に歩行者に注意して除行しなければなりません。

◆ 警察署長がやむをえないと認めて許可した車両は、歩行者用道路など車両の通行が禁止されている道路を通行することができます。

2、歩行者に対する車両の注意義務

◆ 歩行者の側方を通過する車両は、歩行者との間に安全な間隔を保つか、また除行しなければなりません。

◆ 横断歩道に接近する車両等は、横断しようとする歩行者がいなくても明らかに横断歩道の直前で停止できるような速度で進行しなければなりません。

3、その他

◆ 歩行者は、がけなどがあるため道路の右側端を通行することが危険なとき、その他やむをえないときは、

季節の酔い

酔い運転
事故のもと

「おじさんたちこれ見て」



泰平一家

志呂比本 森



マイカーだと足がよわくなるからジレンマにのろう

そっちはママがつかっていいよ

なるほどママのたいようか

かたきたきけんよ

【車は急にとまれない】

【正しい横断】

道路の側端を通行することができません。

- 二、その他新しい交通ルール
- 1、急ブレーキは、危険防止のためやむをえない場合を除いて禁止されます。
- 2、車両はみだりに進路を変更してはなりません。
- 3、二重追越しは、それを始めることも禁止されます。

- 4、夜間他の車両等の直後を行行する車両等は、灯火を消しまたは灯火の光度を減ずるなどの操作をしなければなりません。
- 5、車両の運転者は、必要以上に合図を継続し、また必要がないのに合図をしてはなりません。

季節の酔い
とんだハシゴで
飲んで道路を
ふらつかぬよう



戸籍の窓口

お誕生日おめでとう
十二月十五日現在

- 中村 陽子 (信) 古佐井
- 坪谷 みゆき (照一) 大佐井
- 館脇 亮 (豊) 古佐井
- 磯川 真希 (博) 大佐井
- 東出 拓哉 (尚) 古佐井

- 田中 政春 (福 浦)
- 山田 礼子 (東京都)
- 山本 典明 (大佐井)
- 田上 サダ子 (川崎市)
- 鈴木 義弘 (横浜市)
- 中村 政子 (古佐井)
- 佐々木 公司 (木造町)
- 瀬原 杉子 (大佐井)
- 吉武 西次郎 (東京都)
- 和田 信子 (大佐井)
- 吉田 昭雄 (東京都)
- 坪谷 秀子 (大佐井)

- 滝川 三男 (西根町)
- 樋口 茂子 (大佐井)
- 品田 阜一 (大佐井)
- 福士 憲子 (弘前市)
- 斉藤 忠 (八幡平村)
- 野呂 英子 (大佐井)
- 工藤 金市 (大佐井)
- 大坂のり子 (大間町)
- 佐々木 義信 (天間林村)
- 奥本 恵子 (大佐井)
- 畑中 一義 (大佐井)
- 沢口 優子 (朝日町)

おしらせ

村政の窓口

- 11月10日 国有林野活用に関する説明会
- 15日 歯科医師来村
- 17日 振興センター建設常任委員会
- 19日 国有林野活用説明会
- 22日 教員住宅入札 (牛滝百三十万円・坪谷正隆、福浦百二十七万円・竹本建設、佐井中百二十三万円)

- 29日 観光に関する打合せ会
- 30日 国保運営協議会組織会
- 12月1日 歯科診療所開設
- 6日 決算監査

編集後記

「もういくつねるとお正月...」と、もう一九七一年は暮れようとしていきます。『月日は百代の過客にして、行きかう年もまた旅人なり(奥の細道)』といった芭蕉の気持ちがかかるような気がします。なにか「あ」という間の年の暮れ」といった感じですが。

ふりかえてみると、ことしの一月から、始めて広報に写真を入れ、活版印刷にしてちょうど一年、観光音頭ができたこと、土木技術者講習会、四月の選挙で村長がかわり、議員に新人五人が当選、水道のこり、養殖こんぶの成功、公害追放漁民総決起大会、村民大運動会、山村開発センターと庁舎の新築など、いろいろなことがありました。特に、水道のこりに関しては、みんなの健康に

関すること心配されましたが、幸い伝染病の発生もなく、どうにか給水しているようです。来年度は約二千万円で改良工事をする予定だそうです。広報についても毎年のことながら、内容の充実しないことや発行日のおくれなどいろいろ不備な点があり反省しています。みなさんからの投稿をおねがいしていましたが、ことは去年よりも数が多くなってきてよろこんでいます。特に出かせぎの人達からのたよりは、ほんとうにうれしいものです。出かせぎ先から写真を送っていただきましたが、手違いで掲載することができなかつたことをおわびします。来年からは出かせぎ先と仕事の種類など、だれがどこで働いているか一目でわかるように広報で取り組んでみたいと思います。

恒例のテレビ番組「紅白歌合戦」も終り、「ゆく年くる年」で一九七一年のなごりの除夜の鐘のゴーンと鳴り終った時、一九七二年の年明けははじまります。みなさんの「最良の年」でかき「佐井村の「泰明」であることを、お祈りします。

人口

男	2,427
女	2,538
計	4,965
世帯	1,115

「泰明」であることを、お祈りします。

ご逝去おくり申します。

樋口つる (茂助) 大佐井